

## エルニーニョ現象発生時に現れやすい 12 月頃の天候の特徴

エルニーニョ現象発生時に現れやすい世界の天候の特徴は、以下の通りです（1979 年～2008 年の 30 年間のデータをもとにした統計調査による）。

気温は、ヨーロッパ西部、中国東部から東南アジア、米国北部周辺で高温傾向が見られます。カスピ海周辺で低温傾向が見られます（図 1 左）。

降水量は、イギリス、中国華南、米国南部で多雨傾向が見られます。オーストラリアで少雨傾向が見られます（図 1 右）。

2009 年 12 月の天候は、インドシナ半島からインドネシアにかけての高温、米国南部の多雨がエルニーニョ現象時の傾向と一致していました（図 1 に楕円で示しています）。

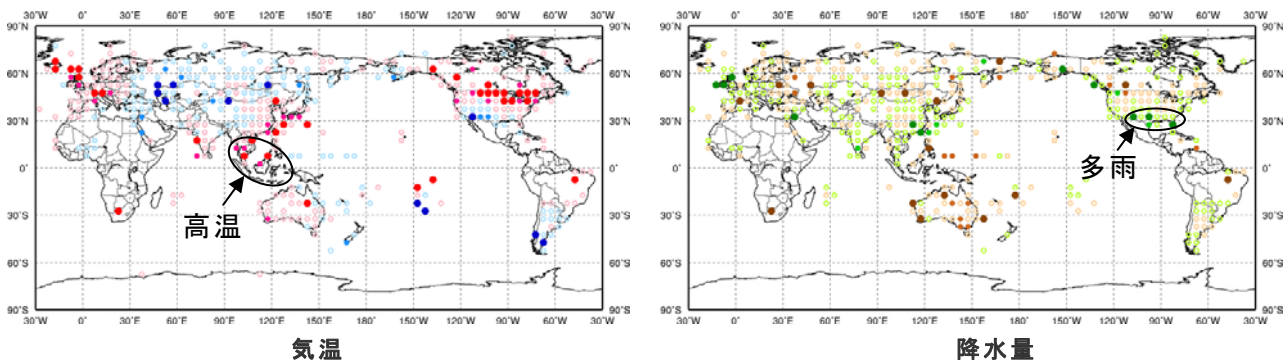


図 1 エルニーニョ現象発生時の 12 月頃（11 月～1 月の 3 か月平均）の天候の特徴

エルニーニョ現象発生年とエルニーニョ現象・ラニーニャ現象とも発生していない年とで比較し、気温が高い領域を赤、低い領域を青、降水量が多い領域を緑、少ない領域を茶色で表します。統計的な信頼水準が 95%以上は大きい塗りつぶし、90%以上 95%未満は小さい塗りつぶし、90%未満は淡い丸で示しています。マークがない領域は比較を行うのに十分な資料がないことを表わします。なお、気温については長期的な変化傾向を除いています。